

ドラッグの注射と HIV リスク - 物質乱用、パート 3

ドラッグの注射では、注射針と注射器でドラッグを血流に注入します。

ドラッグを調合したり注射したりする器具、いわゆる「道具」を HIV 感染者と共有した場合、HIV 感染者の血液が注射針に残っていたり、薬物溶液に混ざったりする可能性があります。その場合、身体に直接 HIV を注射することになります。注射針や注射器を共有することは、どのように使用したとしても HIV 感染リスクが高いことを覚えておいてください。



また、ドラッグで高揚している場合、リスクの高い性行為をする可能性が高くなります。こうして HIV に感染したり、感染させたりするリスクが高まります。

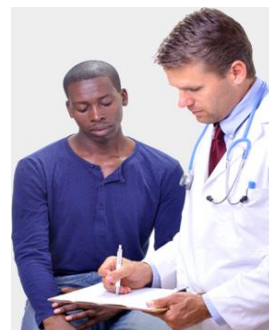
B 型・C 型肝炎ウイルスもまた、HIV 感染者に多く、また HIV 感染者に感染するケースも多いウイルスです。米国では、HIV 陽性でドラッグを注射している人の 10 人中 8 人は C 型肝炎を患っています。

C 型肝炎は、肝障害や肝不全を引き起こす可能性を 3 倍に高めることから、HIV 感染者にとってはより深刻な疾患です。そのため、HIV 陽性で薬物ドラッグを注射している人は、C 型肝炎も患っているかどうかを確認することが重要となります。

ドラッグの注射を止めることで、HIV に感染したり感染させたりするリスクは大幅に低くなります。医療機関と治療プログラムについて話し合ってください。

ドラッグの注射を続ける場合、殺菌済みの注射針や道具のみを使用してください。**絶対に**注射針や道具を共有しないでください。

HIV/エイズに関して疑問がある場合は、必ず解決してください。公衆衛生局または医療機関に問い合わせるか、公共図書館にて調べてください。



Text is from HIV/AIDS sources from the Department of Health and Human Services and adapted by HealthReach and Healthy Roads Media. This project has been funded in whole or in part with Federal funds by the National Library of Medicine award number HHSN2762015000111 awarded to the Center for Public Service Communications. Images from iStock.com.